

仙台市の北隣の寛谷市に本社を置くジェー・シー・アイは、医療や福祉、介護、保育に関する事業を幅広く展開する。社長として10年近く会社を率いているのが秋田市出身の大信田和義さん(62)だ。「顧客ニーズにきめ細やかに応じ、サービスを進化させていく。社員やその家族の幸せも追求し、成長を遂げていきたい」と力強く語る。



宮城県寛谷市にあるジェー・シー・アイ本社

ジェー・シー・アイ社長 大信田和義さん(秋田市出身)

## 福祉のインフラ担う

### 顧客ニーズに柔軟対応

1976年創業。秋田市や札幌市、さいたま市、横浜市など6カ所に支店を持ち、福祉施設や医療機関に紙おむつやマスクなどの消耗品を販売するほか、オーダーメイド車椅子の販売や福祉用具のレンタルなどを手がける。仙台市内では認可保育園を3カ所で運営。年商は6億5千万円(2023年6月期)に上る。

大信田さんは社長就任後、取り扱う商品の配送など物流を担うグループ会社を22年に設立。昨年11月に新設した本社の脇に拠点倉庫を設け、ここから5千カ所以上の取引先に商品を毎日発送している。

さらに昨年1月には新



経営理念について語る大信田社長

たなグループ会社を立ち上げ、トヨタ自動車の子会社「トヨタカスタマイジング&ディベロップメント」(横浜市)と連携し、送迎用の福祉車両を開発・製造する事業にも

着手。座席の配列や手すりの位置など顧客の求めに応じてカスタマイズした車両を提供し、順調に

受注を伸ばしている。介護現場では人手不足の影響もあり、高齢者にサービスを提供する職員が、送迎車の運転も担うケースが増えているという。大信田さんは「介護に携わる職員は女性が多い。女性でも運転しやすいよう、従来よりも一回り小さい車両を選び、要望を聞き取ってから1台ずつ作っている」と説明する。

こうしたカスタマイズの土台となっているのが、同社が長らく手がけてきたオーダーメイド車椅子の製作。宮城県内のシニアは大人用で85%前後、子ども用は100%近くを誇る。「福祉や医療の分野で地域のインフラを担っている自負がある。営業社員が取引先で聞き取った要望や悩みにワンストップで応じられる強みを生かし、『人

とモノをつなぐ』を合言葉に地域に貢献していきたい」

土崎中、秋田南高から東北福祉大へ進んだ。ボランティアサークルで難病患者と接する中でジェー・シー・アイを知り、1986年に入社。執行役員兼営業本部長、専務などを経て2014年9月に社長に就いた。寛谷市在住。

大信田さんは「中小企業の経営者に一番求められるのは、雇用の場を地元につくることだ」と強調。その上で「秋田は優秀な人材が育つ地。そうした若者の受け皿となるような企業のブランドイメージを向上させ、社員が誇りを感じられる職場を目指していく」と意気込む。

(小松嘉和)

〈随時掲載〉